

なるほど兵庫

兵庫県の工場立地について

経済産業省が発表した2017年（1月～12月）の工場立地調査によると、兵庫県の工場立地が堅調な推移を示している。

工場立地調査とは、工場立地法に基づき、工場または研究所を建設する目的で1千平方メートル以上の用地を取得した事業所に関する調査である。

全国の工場立地は、1009件、1228haとリーマンショック後で2番目の規模となった。

兵庫県の状況

2017年の兵庫県の工場立地は、63件で全国2位、面積は74haで4位となった。地域別では、阪神、神戸、北播磨、西播磨の各地域がいずれも10件以上で、東西の高速道路に沿った地域に立地が多かった（図1）。

企業が工場等の建設に際して、その場所を選定する理由を集計したデータをもとに、兵庫県の強みを確認した。

まず、①「空港、港湾、鉄道等を利用できる」が圧倒的に評価されている。神戸空港や神戸港をはじめとする港湾施設や鉄道網が充実しているといえる。

次に、②「高速道路が利用できる」と交通アクセスの良さも高い評価を得ている。今年4月に新名神高速道路が開通したことも高評価の要因だ。

そしてSpring-8やスーパーコンピュータ「京」といった日本を代表する施設があることなど、

③「学術研究施設が充実」しているのも強みだ。

さらに、住宅地が隣接する産業団地の開発が進んでおり、④「人材・労働力の確保」も容易である。ものづくり県として、製造業の事業所数が全国の4.2%（6位）と工場等の集積があるため⑤、⑥「原材料等の入手の便」も上位5県の中では強みである。

これらの優位性が高く評価され、15～17年の平均で県内企業の立地が4.3件、県外からも23.3件（立地件数全体の37%と件数上位5県では2番目）の誘致につながったと考える（表2）。

一方、他の上位県をみると、東海地方の静岡県、愛知県は、交通の便に加え関連企業の近接性が評価されていた。また関東地方の群馬県、茨城県は他企業との共同立地が高く評価され、それぞれの特徴を示している。

今後の展望

兵庫県と神戸市は「ひょうご・神戸投資サポートセンター」で、民間の産業団地を含む県内のあらゆる物件について、ワンストップサービスの体制で情報提供を行なって誘致につなげている。兵庫県は大消費地の近郊に位置し、数多くの選定理由において他県より優位である。今後とも多くの工場立地を期待したい。

（主任研究員 半田 尚之）

（注）兵庫県統計課「平成29年工業統計調査結果速報」

図1 兵庫県内の地域別の工場立地件数(2017年)

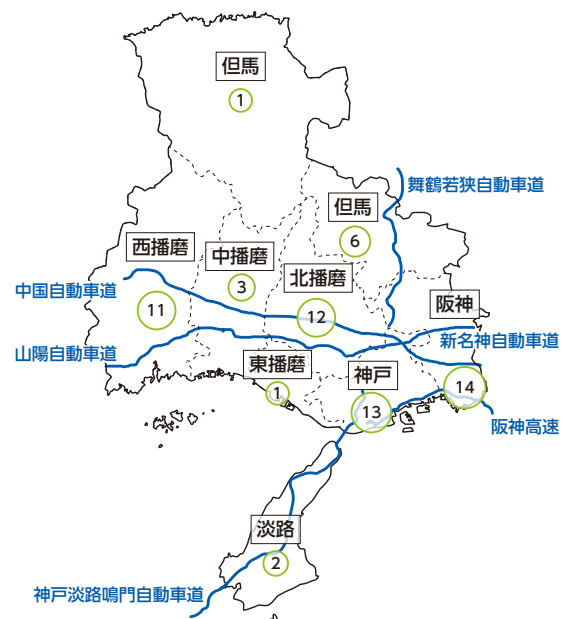


表1 立地場所の主な選定理由 [特化係数]

選定理由	兵庫	静岡	群馬	茨城	愛知
① 空港・港湾・鉄道等を利用できる	2.78	0.42	-	0.95	0.71
② 高速道路を利用できる	1.52	1.13	1.05	0.90	1.51
③ 学術研究機関の充実(産学共同等)	1.35	-	0.23	1.06	1.24
④ 人材・労働力の確保	1.29	0.92	0.75	0.71	0.92
⑤ 他企業との共同立地	1.25	0.84	1.60	1.59	1.37
⑥ 本社・他の自社工場への近接性	1.23	1.08	1.23	0.94	1.47
⑦ 関連企業への近接性	1.19	1.56	1.00	0.81	1.64
⑧ 市場への近接性	1.15	0.95	0.80	1.30	1.19
⑨ 原材料等の入手の便	1.05	0.71	0.64	1.06	0.57
⑩ 地価	0.62	1.04	1.27	1.26	0.96

資料：経済産業省「工場立地動向調査」

※2007～15年の調査結果を集計

特化係数=県の数値÷全国平均(数字が大きいほど強みがあるといえる)

表2 工場立地件数(2015～17年平均)

	兵庫	静岡	群馬	茨城	愛知
合計	63.7	74.7	58.7	56.0	54.3
うち県内企業が県内に立地	40.3	60.3	41.3	23.0	48.0
うち県外企業が県内に立地	23.3	14.3	17.3	33.0	6.3

資料：経済産業省「平成29年工場立地動向調査」

資料：兵庫県「平成29年工場立地動向調査」を基に弊財団が作成